

デジタルデバイドの未来 (実習の進捗発表)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長谷川, 朝陽, 川上, 拓海, 齋藤, 雅己, 森, 優凧 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027436

デジタルデバイドの未来

長谷川朝陽(情報科学科), 川上拓海(情報科学科), 齋藤雅己(情報社会学科), 森優凧(情報社会学科)

近年、急速な情報化によりデジタルデバイドが生じている。その中で我々は地域間・年齢別によるデジタルデバイドについて焦点を当て、その対策を提案する。

調査の結果、地域間でのデジタルデバイドは都市部と地方部との間に生じる情報格差であり年齢別によるデジタルデバイドは、高齢者と若年・中年の人々との間に生じる情報格差である(総務省, 2017, 情報白書)。それらは、地方に多く居住している高齢者がコンピュータ使用の際に困難さを感じることによるインターネットの需要規模の不足が理由の一つである。その対策として第一に地方地域の高齢者向けのコンピュータ教室を、第二に脳波を読み取りそれを用いて操作ができる機器(田中, 2012)を提案する。これらにより、高齢者のコンピュータの知識拡充と操作性の向上を促進すれば、高齢者のコンピュータ活用度が改善され、地方のインターネットの需要も増加し地域間のデジタルデバイドが減少するだろう。

(学習マネジメント,担当教員:宮崎真)